

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年1月31日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676800156
法人名	社会福祉法人 橋友会
事業所名	グループホーム 南の家族
所在地	鹿児島県志布志市志布志町志布志二丁目27番18号 (電話) 099-472-8486
自己評価作成日	令和4年1月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和4年1月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、緑に囲まれて公園や海・買い物・便利なショッピングセンターにも近い場所に位置しており、自然の中にも散歩や買い物などは、いつでも出掛けられる便利な環境にあります。ケアについては、理念やケアのモットーに掲げてある、その人らしい生活がおくれるように一人ひとりの意向を尊重し、ゆっくりと待つことを目指して取り組んでおります。健康面については、定期的な訪問診療や訪問看護リハビリテーションから週1回の訪問を依頼しております。常勤看護師も配置して医療連携が充実して利用者様の健康管理を行っております。食事については、新鮮な食材や旬の物を取り入れ、栄養士に献立作成の協力をお願いし安全で美味しい食事の提供を心掛けております。菜園では、苗植えから収穫まで利用者様と一緒にいき、収穫できた野菜は食事に使用し季節の彩を添えています。野菜の下拵えなど利用者様と一緒に出来る事を取り組みながら手作りにもこだわっています。行事においては、食レクリエーションを取り入れながら毎月の誕生日会や季節ごとに思考を凝らして、笑顔で楽しく過ごして頂くように取り組んでおります。又、運営推進会議に地域の方へ参加して頂く等、地域との関りも大切にしております。共用型通所介護利用もあり、他者との交流も図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所の理念は、全職員で唱和し意識付けをしている。理念達成のための年間目標があり、利用者が笑顔で暮らせるケアの実現に向けて支援している。
- ・母体医療機関や同系列施設との連携が整っており、日常の健康観察や緊急時の24時間対応で、必要な医療が適切に受けられ、災害時の連携も密である。
- ・コロナ感染防止の為に、地域行事や面会・交流を自粛しているが、例年は夏祭りや餅つき・ボランティアの受け入れ等、地域交流が活発である。
- ・職員の資格取得者が多く、利用者・家族・地域住民に信頼されている。
- ・職員のコミュニケーションがよく、相談事など意見が言いやすく、働きやすい職場である。資格取得や研修参加への支援があり、サービスの質向上を目指している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝、スタッフ全員で「ケアのモットー」「相手の行動を認める声掛け」「接遇目標」唱和し、個々で意識をもって実践している。接遇目標は毎月全職員で反省後、目標設定し取り組んでいる。	理念はパンフレットに掲載し、玄関・ホールに掲示。毎日「ケアのモットー」等と一緒に唱和して共通認識を高め、毎月のミーティングで振り返り実践に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	現状は、コロナ禍により地域行事には参加出来ていないが、日常的に散歩や買い物などに出掛けた際に、地域の方と挨拶や会話を交わしている。	例年は地域行事に参加し、ボランティアの受け入れ、地域の花植え等にも参加していたが、コロナ感染防止の為に自粛している。散歩の途中のあいさつや野菜の差し入れ等がある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	自治会行事等へはコロナ禍により参加出来ていない状況であるが、地域の方々に運営推進会議へ参加して頂き、研修で学んだ事など報告している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、利用者の生活状況及び行事への取り組み、ヒヤリハット・リスクマネジメント報告書の提出状況を報告している。意見や要望は職員会議や委員会で話し合っ、サービスの向上に努めている。	年間3回は他施設の会議室で開催できたが、コロナ感染防止の為に現在は書類を郵送して電話でやり取りしている。ホームの状況やヒヤリハット・外部評価結果報告等をしている。意見や提案は話し合っサービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に市の担当者が参加され、状況報告や、市が開催する研修にも積極的に参加し、意見を頂いている。	運営推進会議に参加してもらったり、窓口に出向き現状を報告し意見や提案を得ている。電話等でも連携を図っている。福祉課との連携もあり協力関係ができています。研修はリモートやオンライン等で参加している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置し指針の掲示や勉強会実施により、職員一人ひとりが身体・精神的弊害を理解し拘束廃止に向けた意識をもち、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を3ヶ月毎に開催している。マニュアルを基に内部研修や勉強会をミーティングの後に実施、言葉遣いについてはその場で注意し合っている。外出希望者には職員と一緒に散歩にきりかえて、拘束のない支援を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会を中心に委員会を開催したり、外部研修にも参加している。又、職員に虐待に関するアンケートを実施したり、勉強会を行い、知識を深めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	以前社会福祉協議会で金銭管理の依頼をしていた利用者様がおり協力を頂いていた。適宜職員へ説明し学ぶ機会を持ち、今後も活用できるように行っていく。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>事業所のケアに関する考え方や重度化の看取りについての対応方針、医療との連携など内容を詳細に説明を行っている。介護報酬改定や利用料金変更についての説明は、個別で行い、同意を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご家族が家族会・運営推進会議に出席（コロナ禍により書面での対応を含む）されている。その中で、意見や要望を伺い、出された要望や意見は職員会議で話し合いを行い、反映させている。</p>	<p>本人からはゆっくりくつろいでいる時、話しかけ傾聴している。コロナ感染防止の為に家族会も自粛している。家族には、毎月のホーム便りに写真や支援経過を送り実情を報告し、書面や電話で意見を聞いている。出された意見や要望は、職員会議で話し合い運営に反映している。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>職員が会議を毎月開催（コロナ禍により書面对応を含む）し、意見や提案を審議する場を設けている。又、個人面談などで個々の意見を聞き反映させている。</p>	<p>職員が全員で話す会議を持ち意見や提案を審議している。業務改善やケアに関することが多い。今はコロナの為書面で行っている。管理者に個別の相談は随時行っている。職員間もコミュニケーションが良く、話しやすい環境にある。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>勤務状況を把握し、労働時間の調整などを行っている。個々が向上心を持って労働出来るよう資格取得に向けた支援や研修への参加を促し、働きやすい職場環境作りに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>なるべく多くの職員が外部研修に参加出来るように計画し、研修後は報告の場を設け職員全員が知識が深められるように努めている。毎月の勉強会では、管理者が認知症ケアの勉強会を実施し、職員個々での勉強会も企画し実施している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>コロナ禍により同業者との交換研修は出来ていないが、大隅地区介護事業所連絡協議会へ入会しており、この協議会主催のリモート研修等に参加し、情報交換している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心した生活が送れるように生活の状況・本人の気持ちや要望を事前に面談にて聞き取りを行い、信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と信頼関係を築けるように不安な部分や要望を事前に十分に聞き取りを行い、ケアの取り組みについても話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら必要なサービスに繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は、人生の先輩であるという考えを職員で共有しており、普段から利用者様に教えてもらう場面が多い。又、そのような場面が多くもてるように工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、写真入りの支援経過報告書で利用者様の様子や職員の思いをきめ細かく伝えることで、家族と職員の思いが徐々に重なり、本人を支えていく為の協力関係が築けてきている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により馴染みのある行事等には参加出来ていないが、面会の際など感染対策を行い、関係が途切れない様に支援に努めている。	コロナ感染防止の為にイベントや障害者との交流、年間行事計画の花見や家族との墓参りや外出を自粛している。散歩や受診帰りのドライブまたホーム内でパーティをしている。理美容希望があり、訪問で理容師がホームに来ている。散歩で近所の知り合いとの挨拶をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別で話を聴いたり、レクリエーションで、皆で楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面づくりをする等、利用者同士の関係が上手くいくように職員が調整役となって支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所へ移られた方にも面会に伺ったり、当施設への訪問もあり、付き合いが継続出来ている。退居された家族からの相談も随時対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々接する中で、本人の思いや要望を傾聴し、気持ちを汲み取り、出来ない事より出来る事に注目して、その人全体の把握努めている。	散歩や入浴時などの生活の中で話を聞き、好きなことや食事について希望や話題が多い。意思疎通の困難な場合は、表情や言動を注意して把握している。家族と相談し、生活歴にも目を向け、個々に本人中心に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族等から生活環境や生活歴を聞き取り、事前面談を行っている。入居前にサービス利用している事業所からの情報収集も行い把握に努めている。入居前に来所にて、カンファレンスの開催もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの生活リズムを理解すると共に行動や小さな動作から感じ取り、本人の全体像を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には、日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含め職員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。	本人や家族から希望や要望を聞き、担当者会議で主治医の意見を基に職員で話し合っ介護計画を作成している。毎月モニタリング・カンファレンスを行い、サービス担当者会議を6ヶ月又は必要時に行い、現状に即した介護計画となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別チェック表へ食事摂取量・水分摂取量・排泄等身体的状況を記入している。職員の気付きや状態変化は、個々の支援経過に記録して、職員の情報共有を徹底している。個別記録を基に評価を実施している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>緊急な病院受診の送迎、往診、訪問看護と連携を図る等、柔軟な支援に取り組んでいる。不穏時は、散歩等により気分転換を図られるように配慮した対応も行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>運営推進会議の際、参加者から地域の情報を収集したり、情報交換にて、共に協力関係が築けるように努めている。近くの交番とも協力関係が築けている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医は、本人や家族の希望に沿って柔軟に対応している。訪問診療や訪問看護との連携により健康管理も行っており、必要時は、通院介助も対応している。</p>	<p>かかりつけ医は本人や家族の希望を聞き受診支援している。協力医療機関は精神科もある。訪問診療や訪問看護との連携を行い、緊急時は24時間対応があり、適切な医療を受けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>常勤の看護師を配置している。又、訪問看護リハビリステーションとの契約に基づき、週1回の訪問により、日頃の健康管理や医療面での相談、助言、対応が出来る。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は介護サマリーを作成し、医療機関に情報提供を行っている。又、職員が洗濯物を取りに行く事で状態把握している。病院の相談員や家族とも回復状況等、情報交換しながら速やかな退院支援に結びつけている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>急変時や終末期における医療等に関する意思確認書を記入して頂き、本人や家族の意向を踏まえて、医師・職員が連携を図り、安心して納得した最期を迎えられるように取り組んでいる。</p>	<p>重度化や終末期に向けた指針やマニュアルがあり、契約時に説明し同意書をもっている。状態変化に応じて主治医に細かく相談しながら段階的に早めに家族との連携をとっている。看取りの事例がある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時に対応出来るように緊急時マニュアルを作成している。消防署の協力を得て、蘇生術の研修を実施している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災訓練は、消防署立ち合い訓練・自主訓練を年1回ずつ行って運営推進会議で報告している。両館・併設の夜勤者は一緒に消防のマニュアルを毎日唱和し、安全に対応が行える体制を作っている。又、市の地震・津波防災訓練にも参加している。</p>	<p>年1回消防署立会いの下、夜間対応を中心に避難訓練を実施。年1回自主訓練も行っている。行政の行う災害訓練にも参加している。各ユニットの夜勤者は防災のマニュアルを唱和し、緊急の対応がとれるようにしている。コロナ禍の為、今回は地域への支援の声掛けはしていない。備蓄は3日分ぐらい備えている。水・米・缶詰・レトルト食品等を用意し、防災グッズや発電機もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を重視しながら自尊心を傷つけないように排泄介助の声掛けもさりげなく実施している。また、誇りやプライバシーを損ねない言葉遣いに職員全員で取り組んでいる。	マニュアルを基に、毎月勉強会を行っている。排泄・入浴・更衣・入室等、言葉遣いに注意し、呼称はさん付けである。申し送りは場所に気を付けて行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で自己決定、自己選択の場面を設けて対応している。意思決定が困難な方には、アセスメントや表情を通じて対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活が出来るように、入居前の生活習慣を大切に、生活リズムに合わせて要望を尊重した支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	自己選択、自己決定のもと支援している。行事、イベント、外出時には化粧やおしゃれを楽しんで頂けるよう努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節によって行事食や食レクで手作りの物を召し上がって頂いている。軽作業で、簡単な下拵え・下膳・テーブル拭き・お盆拭き等の手伝いをお願いすると、快く引き受けて下さっている。	栄養士が献立を作成し、職員が利用者の希望を聞きながら調理している。誕生会や行事食等、変化を持たせ楽しい食事になるようにしている。キンカン漬け・ヨーグルト作り等、利用者と一緒に個々の力量に応じて行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人にあつた食事形態、量を検討し提供している。基本のメニューは栄養士が作成している。好き嫌いに合わせて代替えによる提供も実施している。食事、水分制限の方もおられる為、毎回必ず計量提供し、摂取量はチェック表にて把握できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の方には夕食後にポリドント洗浄による清潔保持、残歯がある方には状況に応じた口腔ケア用品を使用している。歯、義歯のトラブルには訪問歯科診療との連携を図り対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の排泄パターン把握の為、排泄チェック表を作成している。トイレ誘導、オムツ交換等、個々の状況に応じた排泄の支援に努めるように排泄マニュアルを作成している。	時間ごとの排泄チェック表があり、動作やしぐさ、時間をみて気づかれないよう優しく声かけし、対応している。基本はトイレでの排泄である。2人介助の場合もある。個々に応じた排泄用品や支援方法を常に検討している。リハビリパンツから布パンツに改善した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を促す食品の提供、十分な水分摂取、適度な運動を実施している。必要時は、主治医への相談にて、個々に応じた予防に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	個人に伺いを立てながら入浴の支援を実施している。一般浴槽、特殊浴槽と準備しており、身体状況も考慮して安心、安全に入浴実施できるよう取り組んでいる。	週2回の入浴であるが本人の希望があればいつでも入れるようにしている。一般浴槽と特殊浴槽があり、本人の希望や身体状況、その日の気分に合わせて支援している。入浴剤も希望で使用している。シャワー浴や清拭もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日を通して体調や状態に合わせた休憩を自由にとって頂いている。また、夜間良眠を促す為、体調不良等無い場合は、趣味活動、個別活動により日中の覚醒時間を重視している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬、飲ませ忘れ防止の為、服薬手順マニュアル作成し、職員2名、本人と確認し服薬介助している。病状に変化みられた際には、訪問看護、主治医と連携を図り対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴に関連した活動の支援ができるよう取り組んでいる。また、季節行事も実施し、気分転換や季節感を持っていただけるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>ご家族様や地域の方との交流については、コロナ禍により制限があり、実施できていない現状もあるが、できる範囲で外気浴、散歩、ドライブ等に出掛けている。</p>	<p>コロナ感染防止の為に外出は自粛しているが、日常的に近隣の散歩や外気浴をしている。天候や体調を見ながら、紅葉やコスモス見物・海を眺めにドライブしている。コロナが終息したら外出計画をしている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自己で金銭管理をされている利用者様はいらっしゃらない。本人・ご家族様の意向にてご本人様との買い物の為、施設へ金銭をお預けになっている方はいらっしゃるが買い物での外出においてもコロナ禍にて制限があり、支援できていない現状である。代理で職員が購入している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご本人様から要望があったり、贈り物が届いたりした際、ご家族様へのお礼の連絡支援をしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>レクリエーションや個別ケアにて制作した作品を掲示したり、季節感ある掲示物で視界に訴えたりと掲示物にも工夫している。また、生活感を感じて頂く為、入居者様より要望のあった水槽を設置し、生活空間作りに取り組んでいる。</p>	<p>玄関から食堂やリビングが開放的に広がり、玄関にメダカの水槽があり、壁には集合写真や季節感のある飾り付けをしている。平行棒があり、ホームで機能訓練ができる。空気清浄器や加湿器・コロナ感染防止の為に対策も行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>施設玄関ホールにベンチ、ホールにソファを設置を設置して共有スペースとして活用している。お一人でもゆっくりでき、多数でも交流の場として活用されている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅で使用されていた湯呑・茶碗・家具の持ち込み等、使い慣れたものを使用して頂ける工夫をしている。又、家族写真、趣味のものを飾り、ご自分の部屋として認識して頂く工夫に取り組んでいる。</p>	<p>ベッド・エアコン・ナースコールが設置され、個々にテレビやラジカセ・椅子・ソファ・遺影・カレンダー・家族写真等、馴染みのものを置き自分らしい暮らしができています。車いす用のスロープも設置している。衣類交換も職員が利用者と話しながら行っている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>本人にとって分かりやすい環境作りを追求し、自室やトイレの場所が分かる様貼紙などの工夫をし自立支援に繋がる様努めている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない